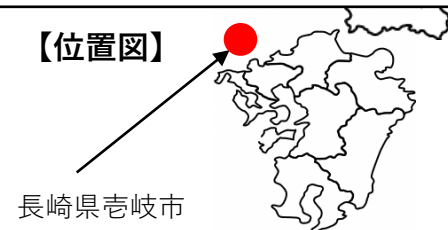


壱岐で農業をやってみたい！その希望を最大限にかなえられる体制づくりへの取り組み

- R3年に策定したJA壱岐市第9次営農振興計画で、10年後の目指す姿として「3つの100」の目標を掲げ、その中の1つ、新規参入100人確保に向けて各部門で具体的な受入目標を設定した。
- これまでの技術研修を主体とした就農支援では受け身的な研修になることから、就農後の定着促進に向け、模擬経営による実践経営研修を組み込むなど、必要な体制整備に取り組んだ。
- 新たな枠組みの中で、農外からの人材確保と移住就農を中心に新規参入の拡大に取り組んでいる。



取組前

○JA就農研修の開始（H15）

（第1期～R4まで合計47名）
内容：農家研修の斡旋と研修生への支援金（JA独自助成）

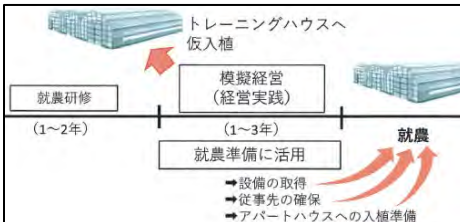
○就農研修の拡充

H28～並行型・研修型コース創設
R1～試用研修・座学開始
R3～研修期間を最長2年へ

○実践型研修の導入検討と新規就農人材確保対策の強化

→JAによる研修農場の整備（取得）により、模擬研修制度の構想を具体化

※目指した事業モデル



取組内容

○R4年度に、実践研修農場を整備（運用開始）

■1号農場 アスパラガス11a
R1：JA所有既設ハウス改修（壱岐市単独）

R3：新植～株養成

■2号農場 アスパラガス26a
R4：経営移譲で取得（自己資金）

■3号農場 イチゴ12a

R4：サポート体制構築事業

○運用→研修農場専任職員を配置（研修指導・管理耕作）

★実践研修（模擬経営）体制
○研修生が主体となった生産管理（模擬経営）

→自らの判断と作業の成果により技術の検証と改善により独立へ向けた準備（管理者は助言指導及び補助的管理）

取組後(成果)

○就農希望者が、就農相談～研修→準備期間を経て就農に至るまでの切れ目のない支援体系が確立。

これにより、移住を伴う就農者の確保に向けた動きが加速

○移住確保及び支援の強化

→移住就農支援チームの発足

○新たな取り組み

R6～就農の受け皿づくり

→園芸団地事業（アパートハウス）・雇用就農支援（マルチワーカーへ）

～設備投資を伴わない農業参入で、農業を家業から職業へ～

※新規就農者数

	就農年（度）				計
	R4	R5	R6	R7	
人	8	15	14	14	51

【サポート体制】

【新規就農者研修事業の実施および就農に向けた支援体制】



■移住就農支援チームの活動

オンラインセミナー→
産地見学会の運営↓
(移住相談会)



第9次営農振興計画
デジタルBook

■JA壱岐市の就農支援は
第9次営農振興計画書より

めざそう! 1000で離島農業日本一



新規就農者や研修生の声

○県外での移住相談会における相談者からの声では、実践研修（模擬経営）の仕組みは参入難度の緩和へと繋がっており、産地の強みといえる。

サポート体制構築事業 活用年度：令和4年度

【問合せ先】 壱岐市農業協同組合（担い手支援課）

TEL：0920-45-0301

E-mail：ninaite01@jaiki.sakura.ne.jp HP：https://ja-iki.jp/